

サバティカル期間における研究経過・成果報告書

2019 年 5 月 21 日

国立大学法人茨城大学長 殿

所属・職名 工学部 講師

氏 名 古宮嘉那子

下記のとおり、サバティカル期間が満了しましたので、研究経過・成果等を提出いたします。

サバティカル制度を
利用した期間

2018 年 5 月 1 日 ~ 2019 年 4 月 30 日

①研究経過について
(利用期間を月単位
などに区分して、具体
的な研究経過を記入
して下さい。)

2018年5月 滞在先の研究室の研究について学んだ(自動要約, 推論, 情報抽出, 数式の言語処理)

2018年6月 自動要約システムの基幹技術をからめた語義曖昧性解消の研究の検討. まず英語の語義曖昧性解消を作ることで合意

2018年7月 英語の語義曖昧性解消の論文を20ほど読む

2018年8月 自らが提案していた日本語の語義曖昧性解消の手法を英語にて構築することとし, 日本語版のプログラムを読み直した

2018年9月 調査しつつ英語版のコーパスの決定

2018年10月 日本語版のプログラムを英語版に改変開始

2018年11月 国際会議に参加, ロンドンにて企業での研究発表 議論により, 細部についてつめる

2019年12月 国際会議に参加 プログラム コーパス部分の改変

2019年2月 ケンブリッジ・ロンドンの企業にて研究発表

2019年3月 オックスフォードにて研究発表

2019年4月 フランスとケンブリッジ大学にて研究発表 英語版のプログラムはほとんど完成

②研究成果について
(目標の達成状況及び
研究成果の公表予定に
ついて記入して下さい。)

帰国後も滞在先であったケンブリッジ大学との共同研究を行うことで合意している。内容は情報抽出の英語から日本語への領域適応についての研究である。実はこちらについて滞在先で研究することを予定していたが、もともとの英語の抽出のルーブリックについて確定していない部分があったこと、また、英語圏で行ったほうが、専門研究者がいて益になると判断した英語の語義曖昧性解消を優先したことで行った研究が予定と異なった。

しかし、今年度もケンブリッジ大学から共同研究者を茨城大学に招いて議論しつつ、自身の研究室の学生も巻き込んで、当初予定していた研究を行う予定である。特に情報抽出のアノテーションは人手が必要な作業のため、学生を利用して行う。既にコーパスについてはケンブリッジで議論し決定しているため、ルーブリックが確定次第アノテーションを急ぐ予定である。

日本語版を英語版に改変した語義曖昧性解消のシステムはほとんど完成しているが、利用したシソーラスの形が日英で異なっており、入手可能な類義語の数に大幅な違いがあるため、そのままでは日本語ほどの正解率は出てこない。シソーラスのノードのマージについていく通りか試してその正解率を算出する予定である。情報抽出の研究には語義曖昧性解消の結果を利用することになると考えている。

サバティカル中には、指導学生の主著を含め、第一著者または責任著者のジャーナル論文3本と国際会議5本を発表または掲載決定したが、これらは前年までの研究内容の論文の執筆・発表である。実験と論文執筆には時差ができるため、滞在中の成果を発表するのは来年度以降となる予定である。

また、富士通の欧州研究所、ケンブリッジのApple社、ロンドンのGoogle社、ケンブリッジ大学およびオックスフォード大学、また二つの国際会議にてこれまでの自身の研究の研究発表を行い、議論を通じて見聞を広めた。そこで得た知見は、今後の研究に役立てる予定である。